

# 奄美大島、徳之島、 沖縄島北部及び西表島



## 情報発信と普及啓発施設

### ■公式ホームページ

奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島 世界自然遺産  
URL:<http://kyushu.env.go.jp/okinawa/amami-okinawa/index.html>



### ■施設・事務所

環境省では4地域それぞれの施設・事務所に自然保護官・管理官を配置し、本世界自然遺産に関する情報提供や普及啓発に取り組んでいます。

#### 奄美大島世界遺産センター

【住所】鹿児島県奄美市住用町大字石原467-1  
【TEL】0997-69-2281  
【HP】<https://amami-whcc.jp>



#### 奄美野生生物保護センター

【住所】鹿児島県大島郡大和村思勝551  
【TEL】0997-55-8620  
【HP】<http://kyushu.env.go.jp/okinawa/awcc/>



#### 西表野生生物保護センター

【住所】沖縄県八重山郡竹富町字古見  
【TEL】0980-85-5581  
【HP】<https://iwcc.jp/>



#### 徳之島遺産センター ニューオープン 2024年12月(予定)

【住所】鹿児島県大島郡徳之島町花徳字坂元2206番  
【TEL】【HP】未定

#### やんばる野生生物保護センター「ウフギー自然館」

【住所】沖縄県国頭郡国頭村比地263番地の1  
【TEL】0980-50-1025  
【HP】<http://www.ufugi-yambaru.com/>



▼ リニューアルオープン

#### やんばる世界遺産センター「ウフギー自然館」

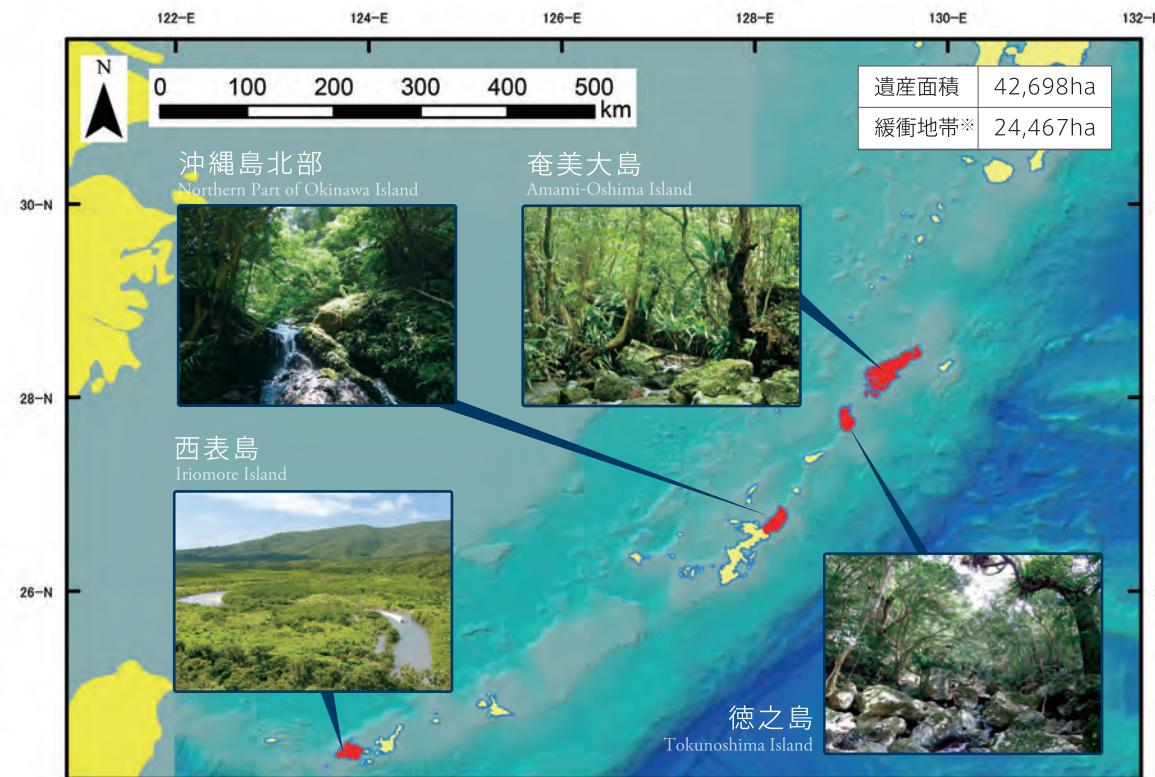
【住所】沖縄県国頭郡国頭村比地263番地の1  
【TEL】【HP】未定  
やんばる野生生物保護センター「ウフギー自然館」は、改修工事のため2024年5月6日(月)～令和2025年7月頃まで閉館予定です。リニューアルオープンの日程は決定次第HPなどでお知らせします。

2019年11月発行  
2024年3月改訂

# 奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島 世界自然遺産

## 奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島 世界自然遺産の特徴

2021年7月、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」は世界自然遺産になりました。この世界自然遺産は、黒潮と亜熱帯高気圧の影響をうけ、温暖で湿潤な亜熱帯性気候を呈し、主にスタジイを優占種とした亜熱帯の多様な常緑広葉樹の混生する亜熱帯多雨林が広がっています。そして、絶滅危惧種や固有種が多く、世界の生物多様性のホットスポットといわれる日本列島の中でも生物多様性が突出して高い地域です。



### 世界自然遺産とは

世界遺産は、人類共通のかけがえのない財産として将来の世代に引き継いでいくべき宝物であり、世界遺産条約に基づいて登録されます。世界遺産には、文化遺産、自然遺産、複合遺産があります。

世界自然遺産に登録されるためには、「自然現象又は自然美」や「生物多様性及び絶滅危惧種の生息・生育地」など、4つの評価基準(クライテリア)のいずれかを満たす必要があります。日本では、「知床」「白神山地」「屋久島」「小笠原諸島」「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の5箇所が世界自然遺産となっています。

日本の世界自然遺産は、その価値を将来にわたり維持していくため、国立公園や森林生態系保護地域などの保全に係る法律や制度により保護管理されています。

### 世界自然遺産の評価基準(クライテリア)

(vii) 自然現象又は 自然美	最上級の自然現象、又は、類まれな自然美・美的価値を有する地域を包含する。【屋久島】
(viii) 地質学的過程又は 地形学的・ 自然地理学的特徴	生命進化の記録や、地形形成における重要な進行中の地質学的過程、あるいは重要な地形学的又は自然地理学的特徴といった、地球の歴史の主要な段階を代表する顕著な見本である。
(ix) 生態系・ 動植物群集及び 生態学的過程・ 生物学的過程	陸上・淡水域・沿岸・海洋の生態系や動植物群集の進化、発展において、重要な進行中の生態学的過程又は生物学的過程を代表する顕著な見本である。 【知床】 【白神山地】 【小笠原諸島】 【屋久島】
(x) 生物多様性 及び 絶滅危惧種の 生息・生育地	学術上又は保全上顕著な普遍的価値を有する絶滅のおそれのある種の生息地など、生物多様性の生息域内保全にとって最も重要な自然の生息地を包含する。 【知床】 【奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島】

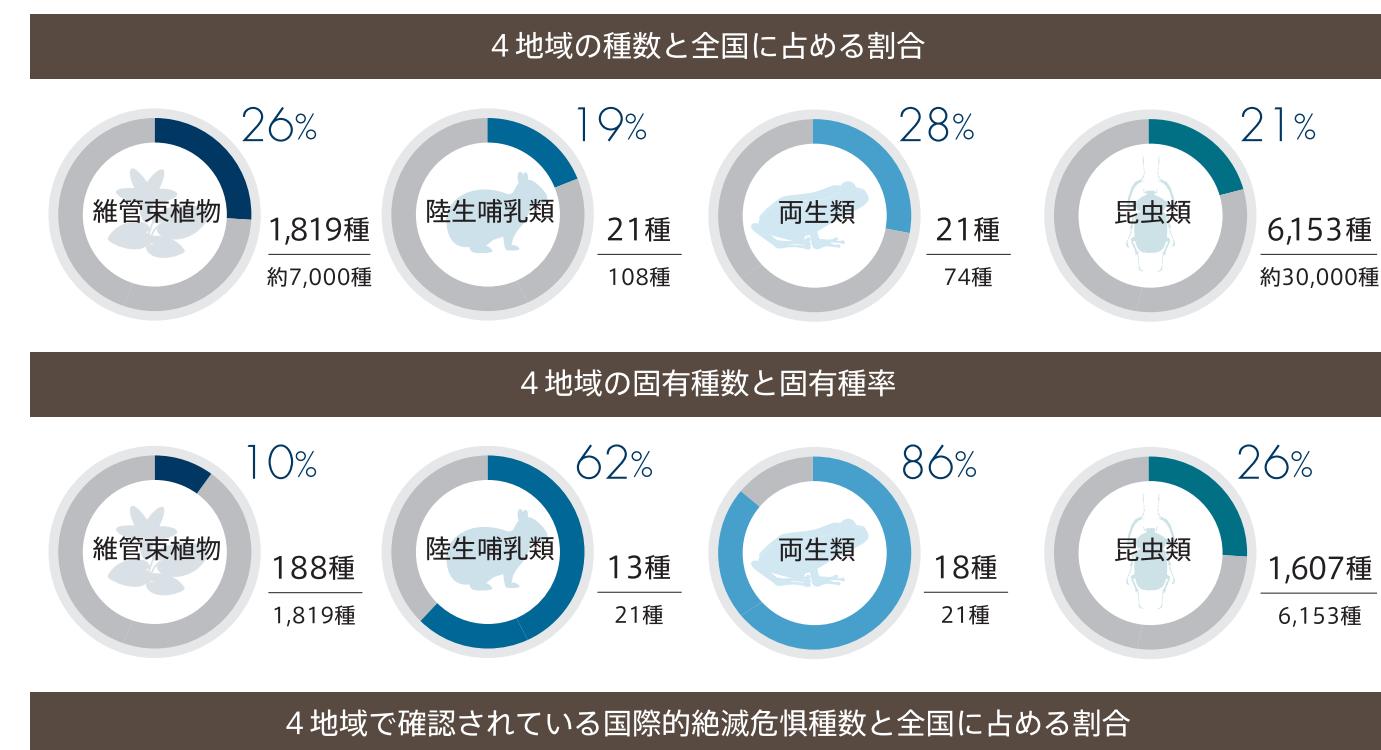
\*番号(i) ~ (vi) は文化遺産の評価基準です。



## 固有種や国際的に重要な絶滅危惧種が多い

奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島は、その面積が日本の国土面積の0.5%にも満たないにもかかわらず、日本の動植物種に対して極めて大きな割合を占める種が生息・生育しています。この地域には、維管束植物1,819種、陸生哺乳類21種、両生類21種、昆虫類6,153種が生育・生息しており、維管束植物の固有種は188種、脊椎動物の固有種は71種となっています。

また、国際的絶滅危惧種(IUCNレッドリストに掲載されている絶滅危惧種)が95種生息・生育しており、日本全体の国際的絶滅危惧種に占める割合も大きいため、世界的にみてもかけがえのない生き物の生息・生育地となっています。

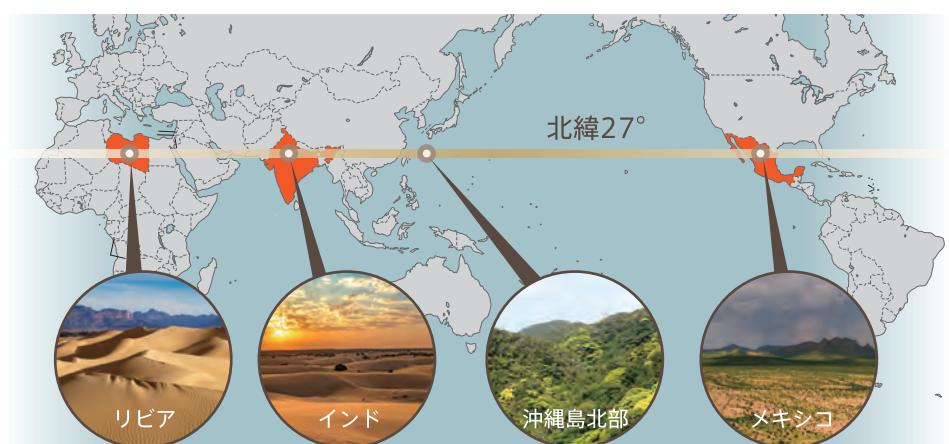


※グラフの数字は世界遺産一覧表記載推奨書より。

維管束植物種数は亞種・変種・雑種を含む集計。  
昆虫の数値(4地域で確認されている種数)には沖縄島全域で確認された種も含まれる。

## 世界の同緯度の亜熱帯地域との比較

世界の亜熱帯地域の多くは、降水量が少ないため、大部分がサバンナ、ステップ、砂漠などの乾燥した土地となっています。奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島は、亜熱帯地域に位置しているにもかかわらず、降水量が多いために成立する多雨林が発達しており、世界的にも稀で特異的な地域といえます。

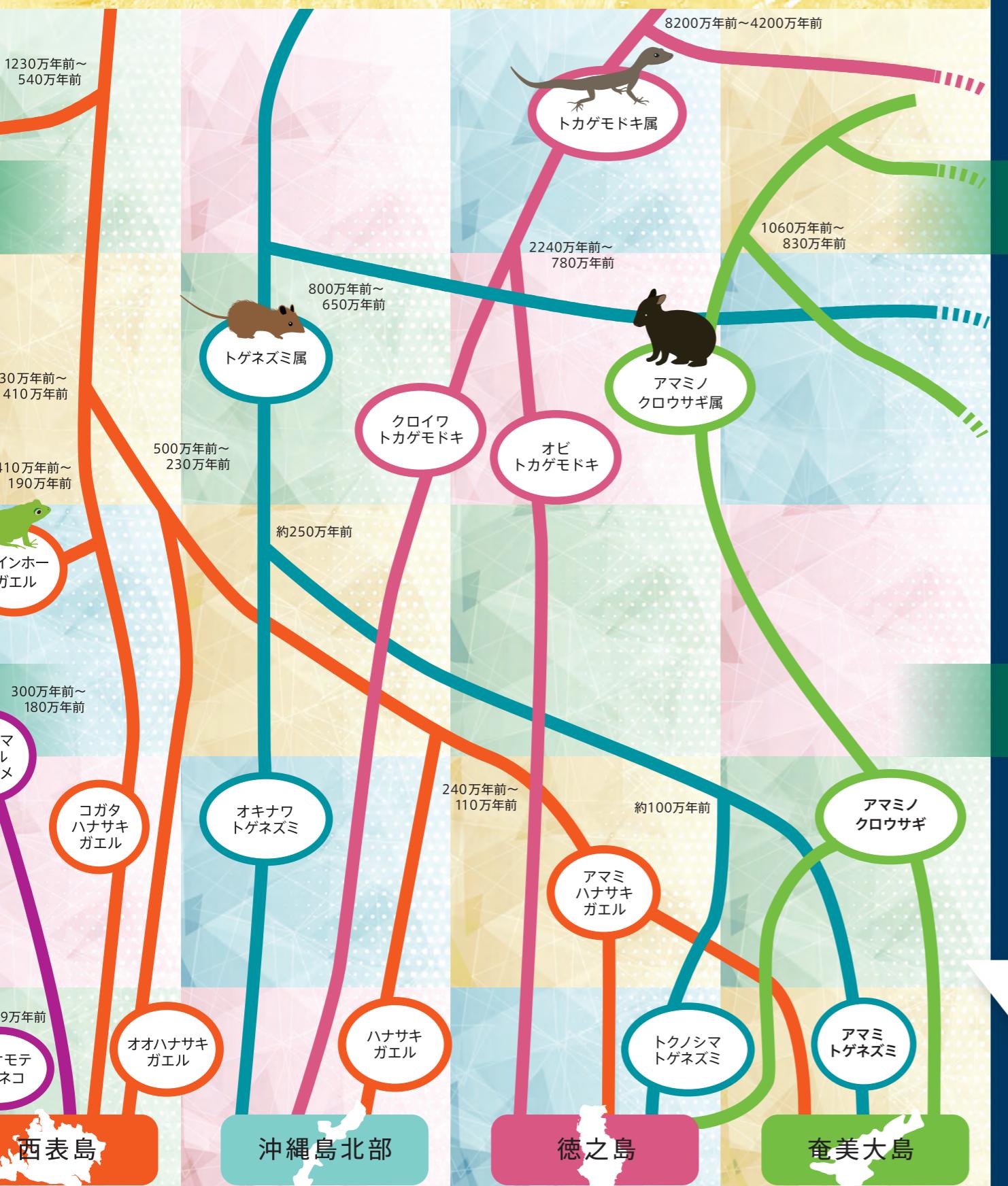


# GEOLOGICAL HISTORY AND BIOTA

## 地史と生物相の成立

奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島は、琉球列島に位置し、かつて大陸の一部であった地史をもつ大陸島です。地殻変動や気候変動による海面変化で島々の分離・結合が繰り返されたため、生きものの生息地・生育地の地理的な隔離が起き、進化が繰り返されてきました。その結果、中琉球や南琉球の生物相は独自性が高く、生物多様性が豊かな地域になりました(右図参照)。

この地域には、古い時代に中琉球に隔離され、現在は中琉球でしかその姿を見ることができなくなった遺存固有種や、近くの島に近縁の種がいる新固有種が生息・生育しており、様々な進化的特徴をもった生き物がいます。例えばアマミノクロウサギは、近縁種が存在しない1属1種の奄美大島及び徳之島の固有種です。アマミノクロウサギと他属との分歧年代は約1060万年前～830万年前頃と推定されており、このことは、中新世の中期から後期に大陸の一部であった奄美大島と徳之島が鮮新世には大陸から隔離されていたとする地史と一致しています。



### (～約1,200万年前以前) 中期中新世以前

現在の琉球列島はユーラシア大陸の東端に位置し、陸続きだった時代には、ユーラシア大陸と共にするような陸生生物相であったと考えられる。



### 後期中新世～更新世初期 (1,200万年前～約200万年前頃)

- ①地殻変動により、大陸と中琉球・南琉球の間が開き始めた。後期中新世(約1,200万年前～約500万年前)にはトカラ海峡や慶良間海裂により、中琉球が分断され、アマミノクロウサギ、トゲネズミ類、トカゲモドキ類などの陸生生物相が隔離された。
- ②鮮新世(約500万年前～約260万年前)には、南琉球が大陸から分離され、ヤエヤマセマルハコガメなどの陸生生物が隔離された。



### 更新世初期～現在 (約200万年前頃)

- ①大陸では中琉球と共通の祖先種をもつ陸生生物が絶滅してゆき、中琉球は遺存固有な陸生生物相となった。
- ②気候変動に伴う海面変化で近隣島嶼間の分離・結合が繰り返され、生物分布の断片化が進んで、島嶼間での種分化が進行した。
- ③イリオモテヤマネコは、氷期の海面低下で南琉球と大陸の間が狭くなったとき、大陸から海を渡って南琉球に侵入した。

現在



# 奄美大島

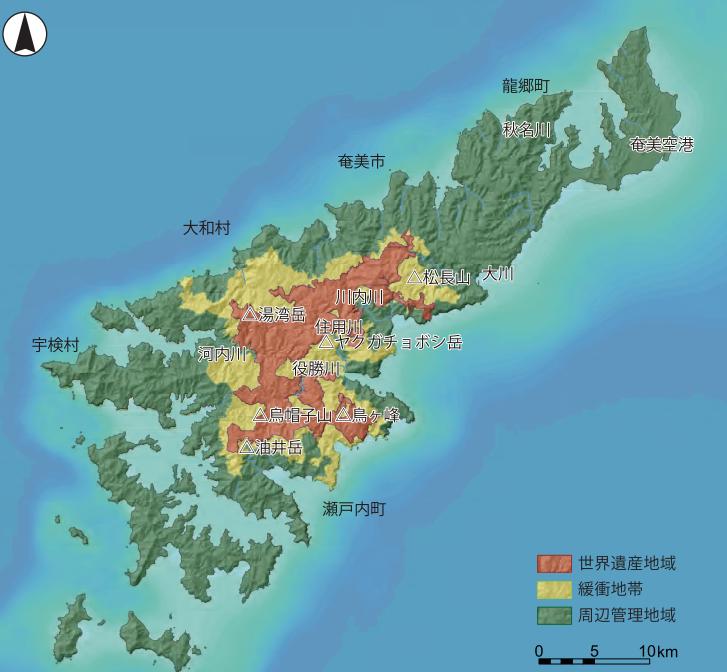


## 奄美大島のデータ

世界遺産地域の面積	11,640ha
緩衝地帯の面積	14,663ha
維管束植物固有種数	125種(固有種率:10%)
陸生哺乳類固有種数	8種(固有種率:62%)
両生類固有種数	9種(固有種率:90%)

## 概要

奄美大島の中央部・南部では、湯湾岳(694m)や油井岳(484m)などの山塊から海域まで、豊かな亜熱帯照葉樹林が連続しています。これらの森林では、アマミノクロウサギ、ケナガネズミ、ルリカケスなどの遺存固有種のほか、アマミトゲネズミ、オットンガエルなど遺存かつ新固有種の生息地となっています。また、湯湾岳は奄美大島の中で最も標高が高く、日射量が限られた空中湿度が高い雲霧帯になっており、コゴメキノエランなどの希少な着生植物が樹上に生育し、林床にはシダ植物が繁茂しています。



アマミヤマシギ  
■琉球列島の固有種  
●EDGE種  
◆絶滅危惧種(IUCN)

アマミトゲネズミ  
▲遺存固有種  
●EDGE種  
◆絶滅危惧種(IUCN)

アマミハナサキガエル  
■琉球列島の固有種  
●EDGE種  
◆絶滅危惧種(IUCN)

アマミノクロウサギ  
▲遺存固有種  
●EDGE種  
◆絶滅危惧種(IUCN)

フジノカンアオイ  
▲遺存固有種  
■絶滅危惧種(IUCN)

ルリカケス  
▲遺存固有種  
●EDGE種  
◆絶滅危惧種(IUCN)

アマミスマリ  
▲遺存固有種  
◆絶滅危惧種(IUCN)

アマミサナエ  
■琉球列島の固有種  
◆絶滅危惧種(IUCN)

アマミマルバネクワガタ  
■琉球列島の固有種  
▼絶滅危惧種(環境省)

コゴメキノエラン  
▼絶滅危惧種(環境省)

アカヒゲ  
■琉球列島の固有種  
▼絶滅危惧種(環境省)

オットンガエル  
▲遺存固有種  
●EDGE種  
◆絶滅危惧種(IUCN)

# 徳之島

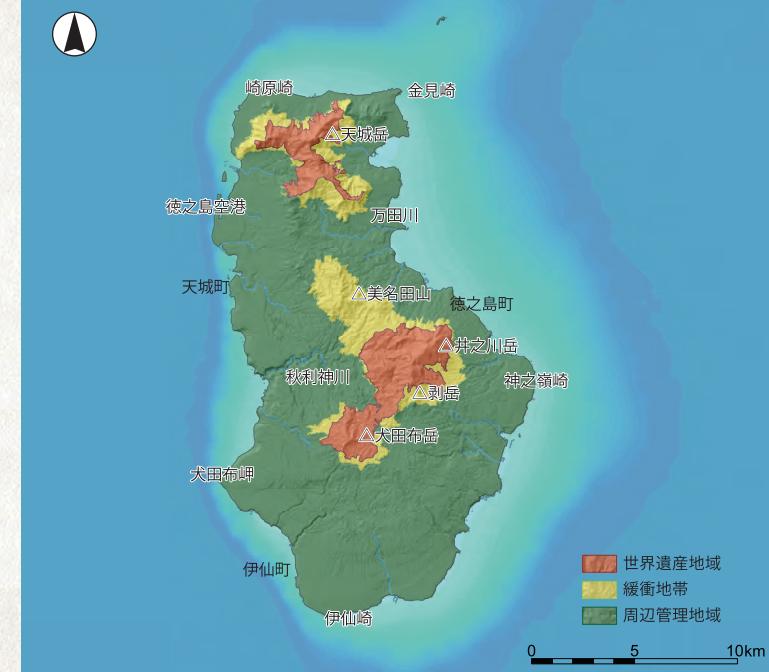


## 徳之島のデータ

世界遺産地域の面積	2,515ha
緩衝地帯の面積	2,812ha
維管束植物固有種数	80種(固有種率:8%)
陸生哺乳類固有種数	8種(固有種率:67%)
両生類固有種数	6種(固有種率:86%)

## 概要

徳之島では、北部の天城岳(533m)や中央部の井之川岳(645m)から犬田布岳(417m)にかけて、スダジイ林を中心とする豊かな亜熱帯照葉樹林が広がっており、特徴的な板根のオキナワラジゴガシの群落が発達する箇所があります。アマミノクロウサギやケナガネズミなどの遺存固有種のほか、オビトカゲモドキやトクノシマトゲネズミなど、徳之島にしかいない新固有種も数多く生息しています。また、トクノシマテンナンショウやハツシマカンアオイなど固有かつ希少な植物の生育地にもなっています。



ケナガネズミ  
▲遺存固有種  
●EDGE種  
◆絶滅危惧種(IUCN)

イボイモリ  
▲遺存固有種  
●EDGE種  
◆絶滅危惧種(IUCN)

コケタンボボ  
■琉球列島の固有種  
◆絶滅危惧種(IUCN)

リュウキュウハグロトンボ  
■琉球列島の固有種  
◆絶滅危惧種(IUCN)



オビトカゲモドキ  
▲遺存固有種  
●EDGE種  
◆絶滅危惧種(IUCN)

ハツシマカンアオイ  
▲遺存固有種  
◆絶滅危惧種(IUCN)

トクノシマトゲネズミ  
▲遺存固有種  
●EDGE種  
◆絶滅危惧種(IUCN)

アマミノクロウサギ  
▲遺存固有種  
●EDGE種  
◆絶滅危惧種(IUCN)



注1: 琉球列島の固有種には、亜種・変種を含む  
注2: EDGE種(ロンドン動物学会)は、進化の歴史の独自性の程度及び保全状態から保全上の優先度が高いものと選定された種  
注3: 絶滅危惧種(IUCN)と絶滅危惧種(環境省)に該当する場合、絶滅危惧種(IUCN)のみ記載。各レッドリストのCR, EN, VUを指す。

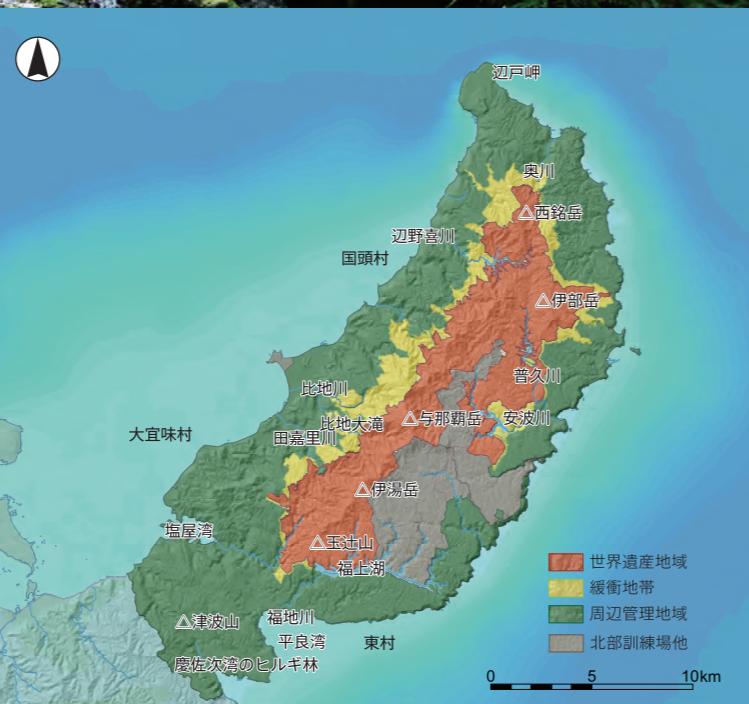
# NORTHERN PART OF OKINAWA ISLAND

## 沖縄島北部



沖縄島北部の  
データ

世界遺産地域の面積	7,721ha
緩衝地帯の面積	3,398ha
維管束植物固有種数	72種(固有種率:7%)
陸生哺乳類固有種数	7種(固有種率:64%)
両生類固有種数	10種(固有種率:91%)



### 概要

沖縄島北部(やんばる)の与那覇岳(503m)や西銘岳(420m)が連なる山塊では、スダジイ林を中心に、豊かな亜熱帯照葉樹林が広がっています。これらの森林には、オキナワトゲネズミ、オキナワイシカワガエル、ヤンバルクイナ、ノグチゲラ、ヤンバルテナガコガネ、オキナワセッコクなど、沖縄島北部にしかいない希少かつ固有な動植物が数多く生息しています。また、渓流域には、周期的な冠水と減水を繰り返す特殊な水環境に適応し、その形態を変化させた植物が生育する渓流植生が良く発達しています。



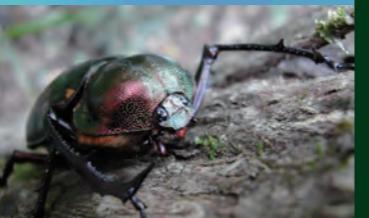
オキナワセッコク  
■ 琉球列島の固有種  
▼ 絶滅危惧種(環境省)



クロイワトカゲモドキ  
▲ 遺存固有種  
● EDGE種  
◆ 絶滅危惧種(IUCN)



ヤンバルクイナ  
■ 琉球列島の固有種  
● EDGE種  
◆ 絶滅危惧種(IUCN)



ヤンバルテナガコガネ  
▲ 遺存固有種  
◆ 絶滅危惧種(IUCN)



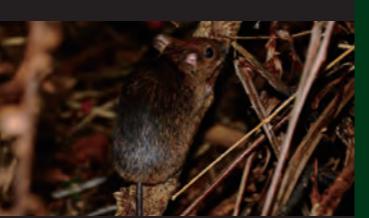
オキナワイシカワガエル  
▲ 遺存固有種  
● EDGE種  
◆ 絶滅危惧種(IUCN)



ノグチゲラ  
■ 琉球列島の固有種  
◆ 絶滅危惧種(IUCN)



リュウキュウヤマガメ  
▲ 遺存固有種  
● EDGE種  
◆ 絶滅危惧種(IUCN)



オキナワトゲネズミ  
▲ 遺存固有種  
● EDGE種  
◆ 絶滅危惧種(IUCN)



ヤンバルホオヒゲコウモリ  
■ 琉球列島の固有種  
◆ 絶滅危惧種(IUCN)



リュウキュウアセビ  
■ 琉球列島の固有種  
▼ 絶滅危惧種(環境省)



ヤンバルトゲオトンボ  
■ 琉球列島の固有種  
◆ 絶滅危惧種(IUCN)



ハナサキガエル  
■ 琉球列島の固有種  
◆ 絶滅危惧種(IUCN)



## 西表島

世界遺産地域の面積	20,822ha
緩衝地帯の面積	3,594ha
維管束植物固有種数	59種(固有種率:5%)
陸生哺乳類固有種数	3種(固有種率:43%)
両生類固有種数	5種(固有種率:63%)

### 概要

西表島には、中央部に古見岳(469m)や御座岳(420m)などの山々が連なり、原生状態に近い亜熱帯照葉樹林が広がっています。また、浦内川や仲良川など、山から海へ連続した流域を含んでいることが特徴で、河川、マングローブ林、低湿地帯、干潟などの多様な生態系を有します。中琉球の他の3地域と比較し新しい時代に大陸と分離したことから、大陸に近縁種が存在するイリオモテヤマネコ、ヤエヤマセマルハコガメ、コガタハナサキガエルなどの新固有種が多く生息しています。



リュウキュウユビナガコウモリ  
■ 琉球列島の固有種  
● EDGE種  
◆ 絶滅危惧種(IUCN)



イリオモテヤマネコ  
■ 琉球列島の固有種  
● EDGE種  
◆ 絶滅危惧種(IUCN)



コガタハナサキガエル  
■ 琉球列島の固有種  
◆ 絶滅危惧種(IUCN)



オオハナサキガエル  
■ 琉球列島の固有種  
◆ 絶滅危惧種(IUCN)



サキシマカナヘビ  
■ 琉球列島の固有種  
● EDGE種  
◆ 絶滅危惧種(IUCN)



ヤエヤマセマルハコガメ  
■ 琉球列島の固有種  
◆ 絶滅危惧種(IUCN)



エクボサイシン  
■ 琉球列島の固有種



カンムリワシ  
■ 琉球列島の固有種  
▼ 絶滅危惧種(環境省)



ヤエヤマハナダカトンボ  
■ 琉球列島の固有種  
▲ 遺存固有種  
▼ 絶滅危惧種(環境省)



アサヒナキマダラセセリ  
▲ 遺存固有種  
▼ 絶滅危惧種(環境省)



キシノウエトカゲ  
■ 琉球列島の固有種  
● EDGE種  
◆ 絶滅危惧種(IUCN)

注1: 琉球列島の固有種には、亜種・変種を含む

注2: EDGE種(ロンドン動物学会)は、進化の歴史の独自性の程度及び保全状態から保全上の優先度が高いものと選定された種

注3: 絶滅危惧種(IUCN)と絶滅危惧種(環境省)に該当する場合、絶滅危惧種(IUCN)のみ記載。各レッドリストのCR, EN, VUを指す。

